

大映スコープ

総天然色

濡れ髪三度笠

雷蔵のスーパーやくざ

本郷のドライやくざ

股旅仁義も型破りの「濡れ髪三度笠」

2958号

大映のチャンピオン三度笠が、超人らしい若々しいタッチで撮影中の「濡れ髪三度笠」(カラー・ニュース)で二人のやくざが登場するが、一人は濡れ髪三度笠(市川雷蔵)という生え放りの風貌、いま一人の長之助(本郷功次郎)は男は軍の若者が騎乗の眼をくもります心の豪傑というわけ、このワンとキリの風変わりな組合せからかもし出される真実なわがしが、特異な中で面白い役割を演ずることになっている。

例えば——いよいよ盛映が迫ってきた二人が、宿場々々の泊りも、無用心な宿屋では危いというので、やくざの貸元の家へわらじを脱ぐことにするが、その支間で仁義を切るのも半次郎の方は、やくざの作法通り、そのため、従来もしばしば股旅物をやって来た雷蔵ではあるが、今度は本格的な仁義を映画の中で紹介しよう、わざわざそろった放式作法にくわしい親分を撮影所に招いてその教えを受けただけに、いわば本格的な仁義をさながら立板に水を流すように一気にやっつけてのける。

この仁義だけにかゝらぬや、雷蔵はこの半次郎で、やくざのすべてを具現しよう、従来にない機取り方がかかっているが、そのためたゞは赤太郎堂の風刺さもあり、各掛時次郎の美理髪さ、色の石松的な愛嬌もあるという纏わりつての広い性格を演じている。

これに対し、本郷の像がやくざの長之助の仁義の方はきわめてドライで簡単「右に同じじや」で、応待に出た若い者は呆気に取られて目をバチタリ、半次郎もこれには完全に食われた形で、大いにクセリながらその立場をつくらうって、「手前弟分の長太でございます、手前同様お引越しのほどお預め申します」と、長之助に目黒て挨拶をすめると「そういう訳じや」と躊躇にうなずく有様、ここで半次郎も仕方なく、手負似て(これはクルクルバー)と示すあたり、雷蔵のこれまで生真面目さがとれて、フツと愛嬌が浮んでくる。

いわばスーパーやくざともいえる半次郎と、ドライやくざ長之助との型破りの組合せが、油ののり切った雷蔵の豪勢の演技と、新スター本郷功次郎の若々しい演技との好対象で、「濡れ髪三度笠」は毎日愉快な撮影が続いている。

特報

